

# 漁獲シナリオ等の検討について

---

令和5年2月15日(水)、16日(木)

第2回資源管理方針に関する検討会  
～カタクチイワシ・ウルメイワシ対馬暖流系群～

水産庁

## 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

- ① 資源評価の更新結果のまとめ
- ② 漁獲シナリオ(案)
- ③ TAC管理の対象範囲(案)
- ④ 管理期間(案)

## 2. 今回検討すべき事項等(ウルメイワシ対馬暖流系群)

- ① 資源評価の更新結果のまとめ
- ② 漁獲シナリオ(案)
- ③ TAC管理の対象範囲(案)
- ④ 管理期間(案)

## 3. 今後のスケジュールについて

# 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

## ① 資源評価の更新結果のまとめ

- 第1回SH会合での意見等を踏まえ、資源の利用実態等をもとに、資源管理の目標を「0～1歳の漁獲量が最大となることが期待される親魚量(SB<sub>97%msy</sub>)」とした場合の結果が新たに示された。
- 「SB<sub>97%msy</sub>」を目標とする場合、「MSYを達成する親魚量」を目標とする場合に比べ、
  - ① 当面の平均漁獲量(=ABC)は大きくなる
  - ② 限界管理基準値(案)を下回る確率は高くなる。

資源管理の目標等	数量
2021年の親魚量	46千トン
目標管理基準値(案)(Target Reference Point: TRP) =MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	84千トン
0～1歳の漁獲量が最大となることが期待される親魚量(SB <sub>97%msy</sub> )	68千トン
限界管理基準値(案)(Limit Reference Point: LRP) =下回ってはいけない資源水準の値。MSYの60%の漁獲量が得られる親魚量。	32千トン
禁漁水準値(案) =MSYの10%の漁獲量が得られる親魚量。	4千トン

# 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

## ① 資源評価の更新結果のまとめ(続き)

「目標の違いによる、①年別の平均漁獲量、②2033年に親魚量が目標管理基準値(案)を上回る確率、③親魚量が限界管理基準値(案)を下回る確率」

### 【MSYを目標とする場合】

2033年に親魚量が目標管理基準値案(84千トン)を上回る確率

$\beta$	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
1.0	41	41	55	54	53	53	52	52	52	52	52	52	52	45%
0.9	41	41	53	54	53	52	52	52	52	51	52	52	52	51%
0.8	41	41	50	53	53	52	52	52	51	51	51	51	51	58%
0.7	41	41	47	52	52	51	51	51	51	50	51	51	51	65%
現状の漁獲圧	41	41	71	52	50	48	47	46	45	45	44	44	44	8%

$\beta \times$ 漁獲圧	下回る確率
$1.0 \times F_{msy}$	2.0%
$0.9 \times F_{msy}$	1.3%
$0.8 \times F_{msy}$	0.5%

### 【0~1歳の漁獲量の最大化(SB97%msy)を目標とする場合】

2033年に親魚量がSB97%msy(68千トン)を上回る確率

$\beta \times$ 漁獲圧	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
$1.0 \times F_{97\%msy}$	41	41	63	54	52	52	51	51	51	50	51	51	51	47%
$0.9 \times F_{97\%msy}$	41	41	61	54	53	52	52	51	51	51	51	51	51	53%
$0.8 \times F_{97\%msy}$	41	41	59	54	53	52	52	52	51	51	51	51	52	59%
現状の漁獲圧	41	41	71	52	50	48	47	46	45	45	44	44	44	21%

$\beta \times$ 漁獲圧	下回る確率
$1.0 \times F_{97\%msy}$	11.9%
$0.9 \times F_{97\%msy}$	7.8%
$0.8 \times F_{97\%msy}$	4.9%

# 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

## ② 漁獲シナリオ(案)

- ステップ1・2では、当面の管理の目標となる暫定的な目標管理基準値として、「0～1歳の漁獲量が最大となることが期待される親魚量(SB<sub>97%msy</sub>)」を定める。
- ステップ3では、最新の資源評価結果等をもとに、必要に応じて見直すこととする。
- 限界管理基準値については、「下回ってはいけない資源水準」であり、MSYベースの目標管理基準値に基づいて定めることとする。
- また、親魚量が限界管理基準値を下回る確率をできるだけ小さくする必要がある。
- 上記を前提とした上で、2033年に親魚量がSB<sub>97%msy</sub>を上回る確率が50%を超える漁獲シナリオとして、「0.9×F<sub>97%msy</sub>」を採用。

資源管理の目標等	数量
目標管理基準値 =MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	84千トン
暫定的な目標管理基準値 =0～1歳の漁獲量が最大となることが期待される親魚量(SB <sub>97%msy</sub> )	68千トン
限界管理基準値	32千トン
禁漁水準値	4千トン

2033年に親魚量がSB<sub>97%msy</sub> (68千トン) を上回る確率

$\beta \times$ 漁獲圧	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
1.0×F <sub>97%msy</sub>	41	41	63	54	52	52	51	51	51	50	51	51	51	47%
0.9×F <sub>97%msy</sub>	41	41	61	54	53	52	52	51	51	51	51	51	51	53%
0.8×F <sub>97%msy</sub>	41	41	59	54	53	52	52	52	51	51	51	51	52	59%
現状の漁獲圧	41	41	71	52	50	48	47	46	45	45	44	44	44	21%

# 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

## ③ TAC管理の対象範囲(案):シラスについて

- 現時点においては、以下の理由により、シラスより大きなサイズのカタクチイワシと、シラスを同じ数量管理の対象としては扱わない。
  - i. シラスを対象とする漁業は、いくつかの限定的な地域で行われており、成長の進んだ魚を対象とする漁業の実態とも大きく異なること。
  - ii. 資源評価上も、シラスより大きなサイズの漁獲をコントロールすることで、管理の効果が見込まれると評価されていること。
  - iii. シラスを数量管理の対象として含めないシナリオを採用しようとしていること。
- シラスの管理については、採用しようとしているシナリオで前提としている「現状のシラスの漁獲圧」が続くことを確保する。ステップ3に向けた適切な資源管理目標・漁獲シナリオの再設定に向けて、「資源管理基本方針」に「シラスを対象とする漁業について漁獲努力量を現状より増加させないよう努める」旨を規定するとともに、必要に応じて、漁業法に基づく措置を講じることとする。
- 上記により、TAC報告については、カエリ以上を対象とする。対象となるカタクチイワシの定義等については、以下のとおりとする。

定義: 36ミリメートル以上程度のカタクチイワシ

実際の運用: 体色が銀色のもの

# 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

## ③ TAC管理の対象範囲(案): 都道府県の範囲について

- マイワシ対馬暖流系群と同様に、秋田県から沖縄県までの日本海・東シナ海の府県を対象とする。

対象: 秋田県、山形県、新潟県、富山県、

石川県、京都府、兵庫県(日本海)、鳥取県、

島根県、山口県(日本海)、福岡県(日本海)、

佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

- 大中型まき網漁業に係る管理対象の水域についても、マイワシ対馬暖流系群と同様とする(※)。

(※) 日本海、黄海、東シナ海及び南シナ海並びに太平洋の海域(日本海、黄海、東シナ海及び南シナ海を除く。)のうち宮崎県串間市都井岬灯台正南の線以西、北緯27度0分14秒の線以北の水域(外国の領海及び排他的経済水域(大韓民国にあっては許可省令別表第5の11の項の上欄に掲げる区域、中華人民共和国にあっては同表の12の項の上欄に掲げる区域)を除く。)

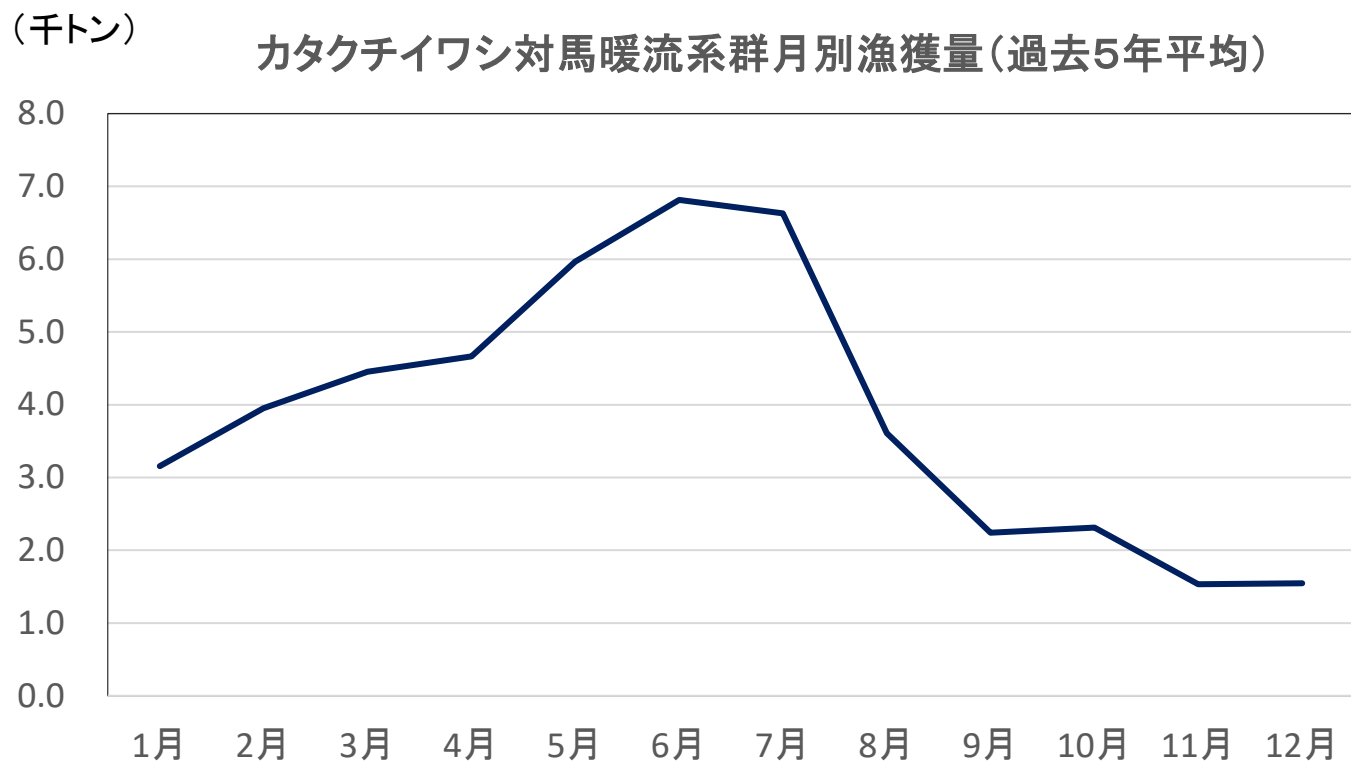
《分布図》



※資源評価上の境界線(農林水産統計の「瀬戸内海区」と「東シナ海区」の境界線)は、⑪: 福岡県北九州市旧門司漁業地区と田野浦漁業地区の境界と⑫: 山口県下関市下関漁業地区と壇ノ浦漁業地区の境界である。

# 1. 今回検討すべき事項等(カタクチイワシ対馬暖流系群)

## ④ 管理期間(案)



資源全体の月別漁獲量を見ると、春から夏に盛漁期を迎えることから、1月～12月とする。



# 2. 今回検討すべき事項等(ウルメイワシ対馬暖流系群)

## ① 資源評価の更新結果のまとめ

資源管理の目標等	数量
2021年の親魚量	63千トン
目標管理基準値(案) (Target Reference Point: TRP) =MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	54千トン
限界管理基準値(案) (Limit Reference Point: LRP) =下回ってはいけない資源水準の値。MSYの60%の漁獲量が得られる親魚量。	18千トン
禁漁水準値(案) =MSYの10%の漁獲量が得られる親魚量。	2千トン

### 【MSYを目標とする場合の

#### ① 年別の平均漁獲量、② 2033年に親魚量が目標管理基準値(案)を上回る確率】

$\beta$	2033年に親魚量が目標管理基準値案(5.4万トン)を上回る確率														
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033		
1.0	34	49	38	38	38	37	37	36	36	36	36	35	36	43 %	
0.9	34	49	36	38	37	37	36	36	36	35	35	35	35	48 %	
0.8	34	49	34	37	37	37	36	36	35	35	35	35	35	54 %	
0.7	34	49	31	36	36	36	35	35	35	34	34	34	34	61 %	
現状の漁獲圧	34	49	40	38	37	37	36	36	36	35	35	35	35	39 %	

# 2. 今回検討すべき事項等(ウルメイワシ対馬暖流系群)

## ② 漁獲シナリオ(案)

- 目標管理基準値として、「MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量」を定める。
- 2033年に親魚量が目標管理基準値を上回る確率が50%を超える漁獲シナリオとして、「 $\beta = 0.8$ 」を採用。

資源管理の目標等	数量
目標管理基準値 (Target Reference Point: TRP) =MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	54千トン
限界管理基準値 (Limit Reference Point: LRP) =下回ってはいけない資源水準の値	18千トン
禁漁水準値	2千トン

2033年に親魚量が目標管理基準値案(5.4万トン)を上回る確率

$\beta$	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
1.0	34	49	38	38	38	37	37	36	36	36	36	35	36	43 %
0.9	34	49	36	38	37	37	36	36	36	35	35	35	35	48 %
0.8	34	49	34	37	37	37	36	36	35	35	35	35	35	54 %
0.7	34	49	31	36	36	36	35	35	35	34	34	34	34	61 %
現状の漁獲圧	34	49	40	38	37	37	36	36	36	35	35	35	35	39 %

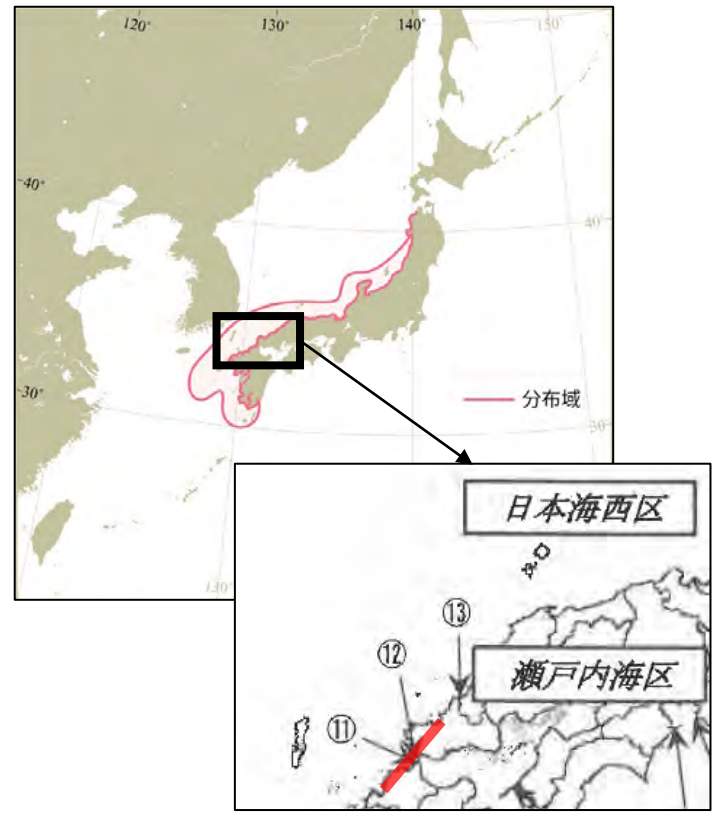
## 2. 今回検討すべき事項等(ウルメイワシ対馬暖流系群)

### ③ TAC管理の対象範囲(案): 都道府県の範囲について

- マイワシ対馬暖流系群と同様に、秋田県から沖縄県までの日本海・東シナ海の府県を対象とする。  
対象: 秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、京都府、兵庫県(日本海)、鳥取県、島根県、山口県(日本海)、福岡県(日本海)、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県
- 大中型まき網漁業に係る管理対象の水域についても、マイワシ対馬暖流系群と同様とする(※)。

(※) 日本海、黄海、東シナ海及び南シナ海並びに太平洋の海域(日本海、黄海、東シナ海及び南シナ海を除く。)のうち宮崎県串間市都井岬灯台正南の線以西、北緯27度0分14秒の線以北の水域(外国の領海及び排他的経済水域(大韓民国にあっては許可省令別表第5の11の項の上欄に掲げる区域、中華人民共和国にあっては同表の12の項の上欄に掲げる区域)を除く。)

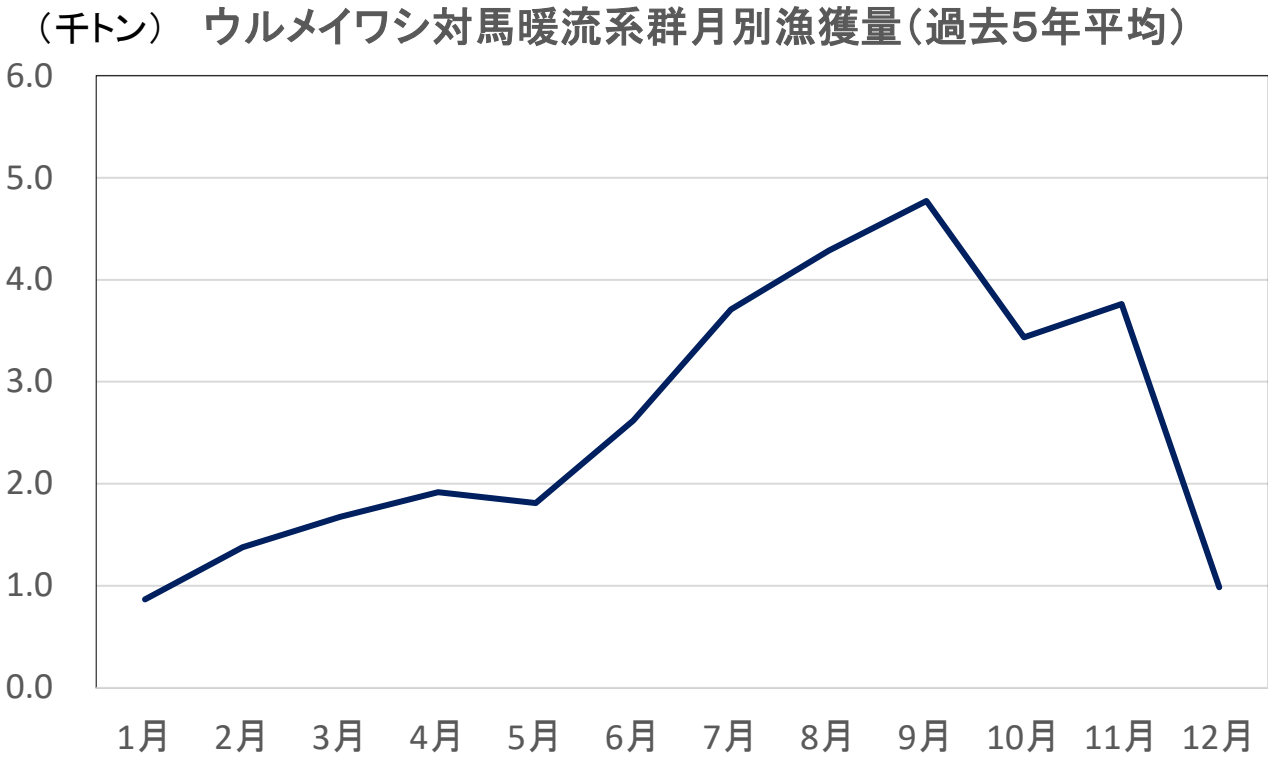
《分布図》



※資源評価上の境界線(農林水産統計の「瀬戸内海区」と「東シナ海区」の境界線)は、①:福岡県北九州市旧門司漁業地区と田野浦漁業地区の境界と②:山口県下関市下関漁業地区と壇ノ浦漁業地区の境界である。

## 2. 今回検討すべき事項等(ウルメイワシ対馬暖流系群)

### ④ 管理期間(案)



資源全体の月別漁獲量を見ると、夏から秋に盛漁期を迎えるが、マイワシとカタクチイワシの管理期間に合わせて、1月～12月とする。

### 3. 今後のスケジュールについて（案）

時 期	事 項	具体的な内容等
令和5(2023)年9月頃	資源管理基本方針の策定 (資源管理目標・漁獲シナリオを含む)	パブリックコメントを実施したのち、水産政策審議会資源管理分科会の意見を聴いて決定
令和5(2023)年11月頃	令和6(2024)管理年度のTAC決定	令和5年度(2023年度)の資源評価公表及びTAC意見交換会后、水産政策審議会資源管理分科会の意見を聴いて、TAC数量の決定と公表
令和6(2024)年1月	TAC管理開始	管理期間: 令和6(2024)年1月1日~12月31日